



★校章の歴史

校章は昭和27年に新制高校として、小松実業高校として生まれ変わったときに制定されたものである。生徒職員の信頼の上に、農工商の三課程は、それぞれの特徴を発揮しながら、がっちりと団結する事が大切であり、そのシンボルとして学び舎を表す「高」のもとでともに学び、小松の「小」に通じ「白山」にも通じ、青年が各々の大志に向かって大きく巣立ってゆく願がこめられて、京都大学の伊東一信助教授によって作成されたものである。実高最後の機・電・紡を経て現在、小松工業高校としてその伝統が受け継がれている。

★校訓【質実剛健・自重自治】の意義（広辞苑より）

質実：飾り気がなくまじめなこと。

剛健：たくましくすこやかなこと。強くしっかりしていること。

自重：①自分の行いを慎んで、軽々しくふるまわないこと。

②自分の品位を保って、みだりに卑下しないこと。

③自分の身体を大切にし、健康を損なわないようにすること。

自治：①自分で自分のことを処置すること。社会生活を自主的に営むこと。

②自治行政の略。

★校訓に込められた思い（編集者追記）

生活様式は華美にならず質素を基本として心身の成長に重点を置き、自らが信じる価値観に従って、いかなる障害があろうとも勇気をもって毅然として立ち向かうことにより、自己の完成を目指す。